

教科名	美術	学年	1 学年
-----	----	----	------

目 標	<p>表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>1 造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、造形的に表すことができるようにする。</p> <p>2 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>3 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。</p>
学年の目標	<p>1 造形的な視点について理解するとともに、意図に応じた表現方法を活用して表すことができるようにする。</p> <p>2 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて目を向け、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する興味、関心を高めたりすることができるようにする。</p> <p>3 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の面白さに気づき、美術を愛好する心情を育み、豊かな生活を創造していく態度を養う。</p>

月	時数	単元名 題材名	単元目標 (観点別の目標)	学習内容	評価の観点 (生徒の達成度を A～D の 4 段階で総合評価)
4 5 / 10 11	9	絵画 「素描」	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 素描の基本や描画素材の使い方を理解し、形を描くことができる。 <p>【思考、判断力、表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象をよく観察し、形の特徴を捉えることができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 素描を通して、ものの見方、感じ方を深めることができる。 	<p>【A表現】</p> <p>1 素描の基礎</p> <p>(1) 素描の世界(鑑賞)</p> <p>(2) 描画素材の種類、使い方について。</p> <p>(3) 線の描き方について。</p> <p>(4) 明暗(陰影)の描き方について。</p> <p>(5) 形のとらえ方について。</p> <p>2 制作</p> <p>(1) 簡単な線画、写真を模写する。</p> <p>(2) 身近なものを描く。</p> <p>【B鑑賞】</p> <p>1 作品発表</p> <p>2 講評～他者の作品について良さを見つけ発表する。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>1 段階：素描の基本や描画材料の使い方が分かり、形を描くことができる。</p> <p>2 段階：素描の基本や描画材料の使い方を理解し、形を描くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>1 段階：対象をよく観察し、形の特徴を捉えることができる。</p> <p>2 段階：対象をよく観察し、形の特徴を捉えることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>1 段階：素描を通して、ものの見方、感じ方に気付くことができる。</p> <p>2 段階：素描を通して、ものの見方、感じ方を深めることができる。</p> <p>評価方法：制作の取り組み、作品提出、レポート、出席</p>
5 6 / 11 12	8	デザイン 「色彩・構成・ コラージュな ど」	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 色の働きや視覚的效果について理解し、主題に沿って配色することができる。 <p>【思考、判断力、表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 色の性質や感情、色の組み合わせを生かし、創造的に表現することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの色彩について関心をもつことができる。 	<p>【A表現】</p> <p>1 色彩・構成の基礎</p> <p>(1) 色の三要素について。</p> <p>(2) 補色について。</p> <p>(3) 三原色について。</p> <p>(4) 色の対比について。</p> <p>(5) 構成美の要素について。</p> <p>2 制作</p> <p>(1) 色彩構成～色紙等を使って表現する。</p> <p>【B鑑賞】</p> <p>1 作品発表</p> <p>2 講評～他者の作品について良さを見つけ発表する。</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>1 段階：色の働きや視覚的效果が分かり、主題に沿って配色することができる。</p> <p>2 段階：色の働きや視覚的效果について理解し、主題に沿って創意工夫を取り入れながら配色することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>1 段階：色の性質や感情、色の組み合わせを生かし、表現の意図や工夫について考えることができる。</p> <p>2 段階：色の性質や感情、色の組み合わせを生かし、表現の意図や工夫について考えを深めることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>1 段階：身のまわりの色彩について関心をもつことができる。</p> <p>2 段階：身のまわりの色彩について関心を深めることができる。</p> <p>評価方法：制作の取り組み、作品提出、レポート、出席</p>
6 7 8 / 12 1 2	12	工芸 「木彫・グラス エンブレ ング・レザー ク ラフトなど」	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料や用具の特性を生かしながら制作することができる。 <p>【思考、判断力、表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 使い手の目的、機能美、造形美を考えて作品制作することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常の生活で使われている工芸作品について関心をもつことができる。 	<p>【A表現】</p> <p>1 工芸の基礎</p> <p>(1) 美術と工芸について。</p> <p>(2) 工芸の世界(鑑賞)</p> <p>(3) 素材の特性について。</p> <p>(4) 用具の使い方について。</p> <p>2 制作</p> <p>(1) 作品制作</p> <p>【B鑑賞】</p> <p>1 作品発表</p> <p>2 講評～他者の作品について良さを見つけ発表する。</p> <p>【数学：図形】【家庭：生活用品】</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>1 段階：材料の特性や用具の使い方が分かり、主題に沿って制作することができる。</p> <p>2 段階：材料の特性や用具の使い方を理解し、創意工夫を取り入れながら制作することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>1 段階：使い手の目的、機能美、造形美を考えて製品を製作することができる。</p> <p>2 段階：使い手の目的、機能美、造形美を考え、創意工夫を取り入れながら製品を製作することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>1 段階：日常の生活で使われている工芸作品について関心をもつことができる。</p> <p>2 段階：日常の生活で使われている工芸作品について関心を深めることができる。</p> <p>評価方法：制作の取り組み、作品提出、レポート、出席</p>
9 / 3	6	鑑賞 「日本の美術・ 文化遺産な ど」	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の美術の変遷や文化の特徴について理解することができる。 <p>【思考、判断力、表現力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 美術作品や文化遺産について、思ったこと感じたことを意見交換することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の文化遺産などのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化について関心をもつことができる。 	<p>【B鑑賞】</p> <p>1 日本の美術</p> <p>(1) 日本美術の変遷について。</p> <p>(2) 日本の文化について。</p> <p>(3) 北海道の美術・文化遺産について</p> <p>【社会：日本の文化】</p>	<p>【知識・技能】</p> <p>1 段階：日本の美術の変遷や文化の特徴について理解することができる。</p> <p>2 段階：日本の美術の変遷や文化の特徴について理解を深めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>1 段階：美術作品や文化遺産について、思ったこと感じたことを意見交換することができる。</p> <p>2 段階：美術作品や文化遺産について、思ったこと感じたことを深め、意見交換することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>1 段階：日本の文化遺産などのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化について関心をもつことができる。</p> <p>2 段階：日本の文化遺産などのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化について関心を深めることができる。</p> <p>評価方法：学習の取り組み、レポート(鑑賞)、出席</p>